

三重大学・三重県が一体となった地方創生を目指す



2015年10月14日(水)、三重大学三翠会館にて、駒田美弘 三重大学長と鈴木英敬 三重県知事の対談を実施しました。「地方創生」をテーマに、三重大学へ期待する役割や双方の協力姿勢について話し合いました。対談の全内容は三重大学ホームページからご覧いただけます。

(<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2015/11/post-1166.html>)



三重大学に求められる役割として、

- ・経済の主体
- ・地域のハブ(中心となる)機能
- ・人づくり

の3つがあると思います。三重大学がもたらす経済効果は直接効果で305億円、間接効果で428億円にのぼります。さらに2,000人近くの教職員が働いておられ、地域の雇用を生み出す場としても機能しています。

県・市町とも、医療支援や共同研究等、多くの点で連携しておられます。特に2014年4月からスタートした「三重県・三重大学みえ防災・減災センター」は他県にも影響を与えるほどのインパクトがありました。三重大学の地域貢献の活動を、これからもさらに発展させていくことをお願いしたいと思います。

人づくりに関しては、三重大学の卒業生は、県内どこに就職してもリーダーシップを発揮する役割になるでしょう。そんなときに大切なことは「自覚」ではないかと思っています。県庁でも、企業でも、大学でも、自分はその場所・立場で頑張らねばならない人間であることを自己肯定しながら自覚することが、ものすごく大事だと思っています。

今後パワーアップしてほしいことは、

- ・教員の養成
- ・スポーツ人材の育成

ですね。教育に関する県民の皆様の危機感は非常に強い。三重県の教員養成の核は三重大学です。時代の潮流、子どもたちのニーズ・多様性に合わせた教員養成機関、教育研究の場であることが望まれます。

スポーツ人材の育成もお願いしたい。三重県では2018年にインターハイが開催されます。東京オリンピック・パラリンピックの2020年には、さらに全国中学校体育大会が、その翌年には国体と全国障害者スポーツ大会が行われます。そのなかで三重県の選手が活躍してくれたら嬉しいですね。障がい者スポーツも含めて、選手・指導者・研究者など、スポーツの人材育成に取り組んでいただけたらなと思います。

最後に、私がいつも言っている「3つのone」の話。それはナンバーワン、オンリーワン、ファーストワン、何かを始めるのなら1番か、唯一か、初めてかを目指したい。三重大学には、ぜひ「3つのone」を実現していただきたいと思っています。一緒に頑張っていきましょう!

三重県知事 鈴木 英敬



三重の文化、海女や忍者などを
学問・研究を通して発信して
ほしいですね。

地(知)の拠点として
「目指すは世界、
それを実践するのは地域」
という関係で三重県内の皆様と
発展していきたい。

COC+にもつながることで、
三重県のこと
好きで好きでたまらない学生が
増えてくれるといいですね。

体力、行動力、発想力、
逆境への強さ…
三重大生の理想像は、
鈴木知事だと思っています。



三重大学と三重県は二人 三脚で頑張っていきます!

「これではいけない」三重大学の学長に就任し、学則(大学の憲法のようなもの)を見たとき、そう思いました。「地域貢献」という言葉がどこにもなかったわけですから。そこで、学則の中に「地域の諸特性に応じた福祉と文化の進展に寄与する」という文言を入れることにしました。自ら地域貢献の義務を負うことで、不退転の決意で地域貢献に取り組んでいきたいと思っています。そのために3つの戦略を立てました。

1. 「地域人材の育成と若者を地域に留め置く機能の強化」
三重大学には7,200人もの若者がいますが、そのうち33%しか県内に残りません。そこで、学生の県内就職率を43%に引き上げる目標を掲げました。三重大学の学生が卒業した後も県に残ってくれるなら、地方創の大きなパワーになってくれるのではと思います。これを実現するには学生の受け入れ先の確保等、企業側にもご理解・ご協力をいただくため、今後足を運んで説明に伺おうと思っています。

そして、高校卒業時点での学力だけで入学生を絞るのではなく、磨けば光る若者が4つの力*を習得し、文系・理系の枠を超えた教養を身につけた人材として大学を旅立ち、社会の中でリーダーシップを発揮してほしいと思います。

2. 「研究成果を地域に還元する機能と、地域の様々な主体のハブとなる機能の強化」
鈴木知事もよくご存知のとおり、三重県は東西南北とても広い。地域それぞれの事情や特色を生かした教育・研究活動や中小企業との共同研究を実施するため、三重大学のサテライトを設置したいと考えています。

市内29市町を全て回り、教育格差についての実情を調べてまいりましたが、地域間・学校間で大きな差があるように思えました。一律同じ支援をするのではなく、それぞれの市町の特徴に合った貢献をしていきたいですね。

3. 「地域力の発信機能の強化」
三重大学の地域の特色ある研究分野や、これまでの研究実績を全国・世界へ発信していきます。世界に通用する研究も多くありますが、自分の地域を常に意識しなければいけないと思います。

子どもたちが夢を実現できる、そんな三重県にしていくために三重大学も力を尽くします!

三重大学長 駒田 美弘

*4つの力: 三重大学が定めた教育目標である「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」のこと